

富士見

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察	
学校教育目標・教育方針	教職員	①私は、学校教育目標や教育方針を理解し、達成できるよう努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	評価結果 についての 分析・課 題	肯定的評価(①そう思う+②だいたいそう思う)は教職員は、96%であった。保護者の肯定的回答は、72%であり理解度に格差があった。生徒は、90%が肯定的評価であった。
	生徒	①私は、学級目標や個人目標を達成するために努力している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	課題解決 への方策	今後は、学校教育目標や教育方針を広く保護者に周知できるようメールや文書で発信する機会を増やしていく。
	保護者	①私は、学校教育目標や教育方針を知っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	学校関係 者評価委 員会によ る評価	○私自身は学校運営協議会内で、話を聞く機会があるので、理解しているつもりですが、会議以外で地域との交流の場などで発表の機会があるととても良いのでは(浸透するのでは)と思います。 ○生徒たちが思いやりの心を持ち、自ら進んで行動することが、これからは必要と思います。
	地域	①私は、学校教育目標や教育方針を理解している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤		

富士見

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察	
学級経営	教職員	②私は、生徒のよさや可能性を発揮できる学級経営を行っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果について の分析・課題	教職員の肯定的評価は92%、生徒は97%、保護者は92%、地域は100%、であった。しかし、生徒の3%は、学校生活があまり楽しいと感じていない結果であるので、肯定的評価を100%に到達できるよう、研鑽していく。
	生徒	②私は、学級での生活が楽しいと感じている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■系列1 ■系列2 ■系列3 ■系列4 ■系列5	課題解決への方策	楽しい学校づくりのためには、良好な人間関係作りが基盤である。学校として、その目標を達成するためにどのように生活していくか、また、具現化のために何が大切かを考察していきたい。そして、スキルアップ(SST)などの方策を実践していく。
	保護者	②学校は、生徒のよさや可能性を発揮できる学級づくりをしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係者評価委員会による評価	○授業中、色々な生徒へ問いかけする場面も見られ、工夫していると思います。 ○教師が一人一人に質問を投げかけて、生徒の可能性を引き出す所は良いです。 ○どの授業も子ども達は積極的に取り組んで好感が持てる。
	地域	②学校は、生徒のよさや可能性を発揮できる学級経営を行っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤		

富士見

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察	
学習指導①	教職員	③私は、生徒が意見を主体的に発表したり、他者の意見を聞いたりして学びを深める授業を実践している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果 についての 分析・課 題	肯定的評価において、教職員は92%、生徒は91%、保護者は91%、地域は100%であった。概ね良好な結果であったが、生徒の9%が③あまりそう思わない意見なので、そこに視点を当て課題を考察していく。
	生徒	③私は、自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれながら勉強している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	課題解決 への方策	教職員や生徒の③あまりそう思わない、の回答の中身を聞き取ったり、改善すべき点を考察し、授業を改善していく。また、生徒の学習に対する取組についても、より質の高い学び合い学習の充実を図る。
	保護者	③学校は、生徒が自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれる授業をしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係 者評価委 員会によ る評価	○授業参観を見ましたが、生徒が自分の考えを言ったり、又相手の意見を聞く所に思いやりを感じました。
	地域	③学校は、生徒が自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれる授業をしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤		○先生の話聞く授業だけでなく、個人で考えたり班や隣の人と話し合ったり、いろいろな視点からの意見にふれられるとてもいい授業だと思う。また、自分と違う意見も尊重することを学べるいい機会だと思う。

富士見

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察	
学習指導②	教職員	④私は、学習目標達成のために学習用端末や大型モニタ等のICT機器を活用して、わかりやすく工夫した授業を行っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果についての分析・課題	肯定的評価について、教職員は92%であった。生徒の肯定的評価は90%、保護者は肯定的評価が87%、③あまりそう思わないが14%であった。地域の肯定的評価は80%、③あまりそう思わないが20%であった。今後は、ICTを使って考えを広げる授業を行うことが課題である。
	生徒	④私は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりして、積極的に授業に参加している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	課題解決への方策	今後も教材研究を充実させ、一人一人の生徒の学力向上と充実した学校生活のために、工夫や努力を続けていく。また、授業を参観し合ったり、ICT機器やタブレットの効果的な使い方学校全体で研修していきたい。
	保護者	④学校は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりする、授業を行っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係者評価委員会による評価	○これからの時代は、なくてはならない物だと思います。活用をお願いします。 ○タブレットを上手に利用し、教科書だけでは得られない情報も授業に取り入れてとても良い学びだと思う。ただ、机の上にタブレットを置くとスペースの関係で教科書などを床に置く様子が見られたので、机の横にノートバックをかけてしまうなど工夫してほしい。
	地域	④学校は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりする、授業を行っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤		

富士見

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察	
体力	教職員	⑤私(学校)は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、生徒の体力向上を図っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果 についての 分析・課 題	肯定的評価の割合で、教職員は83%、生徒は81%、保護者は88%、地域は100%であった。職員の評価では、全体的に疲れやすい生徒がややみられる。との評価であった。
	生徒	⑤私は、体育や休み時間・部活動等で、校庭や体育館などでいろいろな運動をして、体力をつけようと努力している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	課題解決 への方策	体育の授業を含め、部活動や学級活動などで準備体操や基礎体力をつけるトレーニングを取り入れていく。
	保護者	⑤学校は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、生徒の体力向上を図っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係 者評価委 員会によ る評価	○体育的行事で言うと、体育祭の簡素化、部活動の活動時間の削減などあり、体力向上の機会は以前より減少傾向であると思います。この事柄から評価は「3」にしております。ですが、これは「学校側」の責任では無い事は重々承知しております。今後は、この限られた時間の中で試行錯誤し、体力向上を図られることに期待します。
	地域	⑤学校は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、生徒の体力向上を図っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤		○部活、運動会も盛んに行われいい結果も出ていると思います。

富士見

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察	
生徒指導①	教職員	⑥私は、生徒の生徒指導上の課題等に対して、組織的に、家庭と連携・協力しながら対応している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果についての分析・課題	教職員の肯定的評価は、92%、生徒の肯定的回答は88%、保護者は87%の肯定的評価であった。生徒指導に対する学校の対応について概ね理解いただいているものとする。今後は、生徒、保護者の13%の意見を肯定評価に移行できるよう方策を検討する。
	生徒	⑥私は、いじめやトラブルなどの問題に対して、先生や保護者に相談し、一緒に解決しようとしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	課題解決への方策	生徒指導や校則の在り方について生徒の意見も考慮し協力して解決していけるように、議論や確認をしっかりと共有する。対応にズレが生じないように検証していく。
	保護者	⑥学校は、いじめやトラブルなどの問題に対して、組織的に、家庭等と連携・協力しながら対応している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係者評価委員会による評価	○学校と家庭の協力は大事だと思います。 ○学校からの連絡がうまく家庭に伝わっていないケースがあるように思えた。不登校の生徒への配付物など、家庭と担任と上手に連絡をして伝わるよう対応してほしいと思う。
	地域	⑥学校は、生徒の生徒指導上の課題等に対して、組織的に、家庭等と連携・協力しながら対応している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤		

富士見

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察	
生徒指導②	教職員	⑦私は、生徒のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果 についての 分析・課 題	肯定的評価の割合で、教職員は87%、生徒は92%、保護者は84%、地域は75%であった。今後は個に応じた生徒理解が、さらに大切になってきている結果であると受け止めている。
	生徒	⑦私は、自分のよさや可能性を伸ばしたり、友達との関わりを大切にしながら、自分の目標に向かって行動したりしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	課題解決 への方策	教育相談や面談週間を年間計画の中に位置づけて生徒理解に努める。また、個性の伸長を図るために、二者面談を充実させていく。
	保護者	⑦学校は、生徒のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係 者評価委 員会によ る評価	○生徒には個人差があると思いますが、なるべく生徒たちに寄り添っていただければと思います。
	地域	⑦学校は、生徒のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤		

富士見

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察	
特別支援教育	教職員	⑧私は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果 についての 分析・課 題	肯定的評価で教職員は92%、生徒は87%、保護者は73%、地域は80%だった。
	生徒	⑧私は、苦手なことなどを、先生や保護者に相談し、一緒に解決しようとしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	課題解決 への方策	この項目の評価について、特別支援教育としての評価項目を認識できているか、もう少しわかりやすく表現できると良いと思う。
	保護者	⑧学校は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係 者評価委 員会によ る評価	○この設問の「道具」とは、何のことを指しているのでしょうか？それぞれの個に応じた指導をするのは時間的にかなり厳しいのではないのでしょうか。ただ、先生方が限られた時間で最大限に対応されていることも理解しています。
	地域	⑧学校は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤		○文言の中に、特別支援教育についてという語句を入れないと、文章の意味(問いかけの内容)が分かりづらいと思いました。どこに結論を持ていくのかが分かりづらいので、来年度は、評価について特別支援の先生に説明してもらいたいです。

富士見

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
地域とともにある学校	教職員	⑨私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	評価結果についての分析・課題 アンケートの回答結果、教職員の肯定的評価は88%、保護者は88%地域は100%であった。概ね良好な結果ではあるが、地域とともにある学校とは、どのようなものか教職員が共通理解を図り意識を高め取り組んでいきたい。
	生徒			課題解決への方策 連絡体制などを整えることで学校応援団の人材を積極的に有効に活用することを進めていきたい。また学校だより、学年だより、C4thH&S等を活用し広く保護者にも教育活動への協力を呼び掛けていく。
	保護者	⑨私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに協力している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	学校関係者評価委員会による評価 ○学校運営協議会、学校応援団に関わっていますが、自分自身の時間の都合と学校の活動時間との乖離ができ始め、なかなか、協議や事業が進捗しない状況が続いています。自分自身はできる範囲で努めているつもりですが、このような疑念もあることから、評価を「3」にしました。 ○未来ある子供たちです。学校にはないものもあります。地域には参加できるものもありますので、これからは呼びかけます。
	地域	⑨私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	OHUGに参加して、子供たちの素直さにびっくりした。もし、災害が起きても日頃から一緒に訓練していれば、多くの人の命を助けられると確信した。また、地域住民が子供たちの様子を絶えず見ることによって、子ども達が少しでも安心して暮らしていけると思うので、これからも協力していきたい。

富士見

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察	
働き方改革	教職員	⑩私は、働き方改革の目的を理解し、業務改善を進め、心身ともに健康であるよう努めながら、教科指導や教育相談等に係る時間を増やし、教育の維持・向上に努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果についての分析・課題	教職員の肯定的評価は、87%であった。しかし、13%は課題があると回答している。今後は、肯定的評価が増えるよう研鑽していきたい。
	生徒			課題解決への方策	業務改善を推進していく。例えば、カエル会議、ふれあいデーの実践、定時退勤推奨Weekを継続していく。
	保護者			学校関係者評価委員会による評価	○学校が、働き方改革に取り組んでいる事には、昨今の社会状況から、必要な事だと思います。ただ、実際問題として、PTAや地域団体との活動時間について、土曜開催だったり、部活との活動時間との兼ね合いで、少なくなるのではとの懸念があります。今後については、働き方改革を遂行しつつ、お互い歩み寄る事が活動継続の解決策になるのではと思われます。平日昼間の時間帯での活動が増えるならば、ボランティアとしての活動には限界が生じてきます。既に実行しているかもしれませんが、勤務時間の短縮・効率化の他に、先生方のメンタル、ストレスなどへのフォローも同様に手厚くしていただくと共に、心の問題などで、お休みする先生が少しでも減るように、願うところです。
	地域				